

京都南工場の電流検出 部品生産能力を増強

サンコール

サンコールはハイブリッド車(HV)、電気自動車(EV)の電流検出部品「シャントバスバー」の写真を製造する京都南工場(京都市南区)の生産能力を増強すると発表した。電動車市場の拡大

で、中長期的に需要増が見込まれるため。投資額は2億5千万円。

バスバーとシャント抵抗を組み合わせたシャントバスバーは、HVやEVに必要な電流を制御する部品で、同社の

次世代注力製品の1つと位置づける。2020年4月に稼働した京都南工場で製造している。電動車市場の急拡大で、今後、生産能力が不足する可能性があるため、シャントバスバー生産ラインを増設し、生産能力を2倍に増やす。新しい生産ラインは23年10月に稼働する予定で、同年下半年には5億円規模の売り

上げを見込む。

同社は顧客の設計に 대응する高精度な材料塑性加工技術の強みに、EV等電動化関連製品の売り上げを伸ばす計画。シャントバスバーはすでに19年から国内商用HVトラックに採用されているほか、欧米の自動車メーカーへの供給を視野に、今後グローバルでの量産も検討する。

